



第47回「おかねの作文」コンクール

い
活かしたお金

大阪府・吹田市立西山田中学校 2年 浅田 花奈子

先日、私の友人が好きなアイドルのコンサートを福岡まで観^みに行った話を聞き、驚きました。コンサートのチケットを買うだけでも高額なのに、福岡までの旅費を考えたら私にはとても支払えないし、両親にお願いすることもできません。また、別の友人に「同じ映画を5回観に行った」と聞き、とても驚きました。私も、その友人と同じ映画を観に行ったのですが、私にはその映画を何回も観たいと感じませんでした。正直、ただのお金の無駄使いではないか、とも思ってしまいました。中学生になってから、友人の話を聞いていて、お金の使い方について驚いたり私には理解できないことが多くなりました。

私は、4才のときに水泳を習い始め、9才から選手育成コースで本格的に競泳を始めました。6年生のときに選手コースに移って競泳を続けているので、水泳歴は10年にもなります。

私が水泳を始めたころは、スイミングスクールの6,000円ぐらいの水着で泳いでいましたが、育成コースに移ってからは、練習用水着と試合用の水着が必要になりました。練習用水着といっても、高いものは1万円ほどしますし、試合用になると高いものでは5万円もします。でも、その5万円ほどする水着を買えば、タイムが少しでも速くなる、そう思うと5万円は惜しいものではありません。なぜなら、私はその水着の価値を知っているからです。競泳用のジャージも相当高く、長袖長ズボン、半ズボンの組み合わせで5万円ほどします。普通のジャージと比べると、とても高いものですが、そのジャージは保温性にとっても優れていて、レース後の冷えた体を温めてくれます。このジャージの価値も私は知っています。だから、このジャージを買ってほしいと両親に頼むこともできるし、両親は高くても買ってくれます。

しかし、私にとっては競泳水着は高くても欲しいものであり価値あるものでも、友人たちには理解できないものだと思います。アイドルのコンサートのた

めに福岡まで行った友人の価値観に私が驚いたことと、水着に5万円も支払う私の価値観に友人が驚くことは同じことなのです。

このようにお金の使い方の違いを改めて考えると、「人の価値観はそれぞれ違うからお金の使い方も違うのだ」ということを実感しました。

ダンスをしている友人は、大会のために7万円の衣装を買ってもらい、サッカー部の友人は1万円もするサッカーボールを買いました。私の父は、ラグビーをしている弟のために7,000円もするインナーを買い、弟が大喜びして練習に行く姿を満足した表情で見つめていました。これも私には理解できませんが、スポーツのみならず、自分の好きなものに対しては、その本人にしかわからない価値があり、その価値観は周囲の人たちには、ほとんど理解されないことが多いとわかりました。

自分の好きなものにお金を使っている人たちは、そのお金を「もったいない」と思ったことは、一度もないと思います。今まで述べてきた友人たちも同じことなんでしょうと思います。

今はまだ、両親からもらうおこづかいを使っていますが、あと数年もすると自分でお金を稼ぐようになります。小学生のころはおこづかいでよくかわいい文房具を買っていましたが、中学生になってからはおこづかいの大半を文房具に使うことはなくなりました。友人と映画を観に行ったり、雑誌やCDを買ったりするようになりました。こうして私は、数年の間でお金の使い方が変わりました。ものの価値観もこれから経験していくことや周りの環境でどんどん変化していくと思います。

そんな中で、ものの値段だけでなく、自分にとって本当に価値あるものを見極められる目を養っていきたいです。そして、しっかりとした価値観を持ってお金やものを大切に生きてきたお金の使い方ができる大人になりたいと思います。

